



◇本年度の重点目標

考えをもち しっかり伝え、成長を喜び合える子どもの育成
笑顔いっぱい!!できた!わかった!がんばった!自信がついた!

第4号 令和4年7月28日

「当たり前」に「ありがとう」の気持ちを

校長 堀 江 充

6月、修学旅行を予定通り実施できました。どの子ども集団や時間を意識しながら行動できていたことに大変感心しました。そんな子どもたち、地獄谷では通り過ぎりの観光客の皆さんにも元気に挨拶していたのが印象的でした。観光客の皆さんも普通に挨拶を返してくれたり、「気持ちいいね」とニコニコしながら通り過ぎていく姿が見られたりし、東神楽小学校での挨拶の取組がきっと「当たり前」の姿としてあらわれたのだと思います。とても素敵ですね。

6月25日(土)地域貢献で高橋建設の皆さんがグラウンドなどの松ぼっくりひろいを行っていただきました。また、グラウンド北側のフェンスの修繕も行っていただきました。「当たり前」のように行っているご厚意に心から感謝致します。また、北川さんの能園では、例年、4年生で行っているグリーンツーリズムの取組を快く行っていただきました。

「当たり前」の反対は「ありがとう」、「ありがたし」＝「ありえないこと」という意味だそうです。きっと、東神楽小学校にはこの「当たり前」が数多くあり、子どもたちはその中で生活しているのだと思いますが、それは決して「当たり前」ではなく「ありえないこと」です。私も含めてこうした皆さんの「当たり前」に子どもとともにいつも「ありがとう」という気持ちで生活していきたいなと思います。

長い夏休みに入ります。「よいこ」のお願いです。

「よ」く遊び、よく学んでください。「い」のちを大切にする行動をしてください。
「こ」まった時は誰かに相談してください。

夏季休業期間中における「学校閉庁日」について

東神楽町では、今年度も「東神楽町立学校における働き方改革アクションプラン」に基づき、長期休業中に「学校閉庁日」を設定しています。「学校閉庁日」は、教職員が不在となりますので、地域や保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。万が一、緊急連絡の必要が生じた際には、下記まで、ご連絡ください。

〔学校閉庁日〕8月12日(金)、15日(月)～17日(水)

〔緊急連絡先〕東神楽町教育委員会教育推進課 (電話 83-5406)

修学旅行

6月22日(水)・23日(木)に6年生の修学旅行(登別方面)を予定通り実施することができました。

1日目の登別伊達時代村では、お化け屋敷に「キャーキャー」と興奮気味。忍者ショーでは出演者の太刀裁きや素早い動きに魅了されました。こけし絵付け体験では、色や模様を考えながら世界に一つだけのこけしキーホルダーを作りました。ホテルでは、美味しい食事と気持ちの良い温泉、プール、友達との部屋での交流等で楽しむ姿が見られました。地獄谷やホテルで観光客に進んで挨拶する姿に感心しました。

2日目は登別マリパークとウポポイでした。イルカ・ペンギン・アシカのショーを楽しみました。ウポポイは事前学習を深めることを目的に、グループで課題を追究しました。なかなか資料が見つからないときには、学芸員さんに話を聞くなど真剣に観覧していました。わずか一泊二日という日程でしたが、登別や白老の魅力を感じながら、主体性、協調性、社会性などが更に育まれました。修学旅行を実施する上で、たくさんの方にお世話になり、ありがとうございました。



本の読み聞かせ

7月17日は、道民の日でした。北海道は先住民族であるアイヌの人々が生活していた土地です。7月の読み聞かせでは、アイヌ神話等の絵本「ちいさなくまのカムイのおはなし」「カラスとカケスの物語」「アイヌとキツネ」「どっち?どっち?」「しっぽ沼」「伝え守るアイヌ三世代の物語」などを読んでいただきました。

どの学年の子どもたちも、自分たちの住んでいる北海道に興味や関心をもちながら聞いていました。



グリーンツーリズム(北川能園)

7月7日(木)、「少しでも野菜(ピーマン)を好きになってもらいたい」「植物と人のつながりを基に命について考えてもらいたい」と、北川能園で4年生が農業体験をさせていただきました。命についてのお話を伺ったり、機械を見せてもらったり、収穫体験(収穫→袋詰め)をさせてもらったりしました。また、採れたてのピーマンを水洗いして、その場でガブリ!「おいしい!」「炒めたのより甘い感じがする。」と、丸々完食した子が何人もいました。また、おみやげとして、自分で収穫したピーマンをいただきました。農業の大変さや素晴らしさなど、体験を通して学び感じる時間となりました。



校外学習・出前授業

6月2日(木)、地域人材として、保護者でもある東神楽町教育委員会指導主事の山下さんに来ていただき、6年生を対象に、アイヌに関する内容の授業が行われました。授業は身近にあるアイヌ語について考えるものでした。学校の近くを流れるポン川のポンは北海道のほかの地域でもよく見られ、アイヌ語で「小さい」ことをあらわすと一般的に考えられていることや、修学旅行で訪れるウポポイの近くにもポンやポロのつくものが数多くあること、北海道の地名にはアイヌ語が起源となっていると考えられているものが多数あることなどを学び、アイヌへの興味関心につながりました。

6月21日(火)に町の5年生を対象に「AIRDO」航空教室がありました。パイロットさんやキャビンアテンダーさん、整備士さんのお話を聞き、職業に対する思いを膨らませました。興味深く聞かせていただいたのが、女性のパイロットさんのお話でした。「性別は関係ない、なりたいたいという強い気持ちが必要。」とおっしゃっていました。今の学びが将来につながると感じました。

